

京丹後市立図書館

2023年度

おすすめの本

高学年
5・6年生向き

『てん』(あすなる書房)



ピーター・レイノルズ/作 谷川 俊太郎/訳

お絵描きなんて大きい! 苦しまぎれに描いたのは、ちっぽけな「てん」ひとつ。そのちっぽけな「てん」に隠された大きな意味を知って、ワシテは変わり始める…。世の図画ぎらいを勇気づける楽しい絵本。

『子どもテツガク 大切なのは考える力。』(主婦の友社)



小川 仁志/著 林 ユミ/絵

深く考える力を身につければ、どんなことも乗り越えられるようになる。子どもが深く考えることを習慣化できるよう、「どうしていじめるの?」「仕事って大変?」など、86の問いを掲載する。

『おじいちゃんが孫に語る戦争』(講談社)



小川 仁志/著 林 ユミ/絵

深く考える力を身につければ、どんなことも乗り越えられるようになる。子どもが深く考えることを習慣化できるよう、「どうしていじめるの?」「仕事って大変?」など、86の問いを掲載する。

『旅をしたがる草木の実の知恵 ゲッチョ先生の草木の実コレクション』



(少年写真新聞社) 盛口 満/文・絵

野山にはおいしい実をつける草木があります。それは、タネをまいてもらうための植物の知恵です。そして人々はおいしい実を育て果実を生み出しました。草木の実と人との関わり、草木の実の知恵をイラストとともに紹介します。

『ことばハンター 国語辞典はこうつくる』(ポプラ社)



飯間 浩明/著

国語辞典をつくるために、ことばを集め、説明を書く。そのために、毎日本やテレビ、インターネットや街の中などを観察し、ことばを探し、「三省堂国語辞典」編集委員の著者が、辞書をつくる仕事について綴る。

『青いスタートライン』(ポプラ社)



高田 由紀子/作 ふすい/絵

ぼくたちは、未来にむかって泳ぎだす…。佐渡の海で1キロの遠泳にいとむことになった小5の颯太。そこでの出会いと絆、それぞれの心の成長をみずみずしく描きだした、希望と前進の物語。

『サイコーの通知表』(講談社)



工藤 純子/著

通知表なんかで、ぼくらの何がわかるの？ 部下が上司の成績をつける会社があるんなら、小学生が先生の通知表をつけたっておかしくない！ クラス一丸となって、担任のハシケン先生の通知表作りが始まった。

『ジャンプして、雪をつかめ！』(新日本出版社)



おおぎやなぎ ちか/作 くまおり 純/絵

5年生の3学期、両親が離婚し、東京から母の実家がある青森県に引っ越してきた唯志。新しい環境にとまどう唯志に、母の同級生たちが屋根から雪をおろしてくれた。溶け込めずにいたクラスメイトと、初めて雪合戦をして…。

『凸凹あいうえおの手紙』(くもん出版)



別司 芳子/著 ながおか えつこ/絵

大地は小学校で行う交流会の案内の手紙を佐山さんに届けた。けれど、佐山さんは目が不自由で手紙が読めず、返事が来ない。話しかけて返事を聞く勇気のない大地は点字で手紙を書けばいいと気づき…。点字で書いた手紙つき。

『ぼくのドラゴン』(理論社)



おのりえん/作 森 環/絵

その村では赤ちゃんはみな、ドラゴンの卵をにぎって生まれてくる。その卵からかえったドラゴンが、赤ちゃんの一生の「あいぼう」になるのだ。少年アオバとドラゴン・アオの成長の物語。

無断での複写・転載を禁止します。本の内容紹介はTRC MARCより転載しています。

ほかにもあるよ おすすめの本

『わたしの気になるあの子』

朝比奈 蓉子/作
水元 さきの/絵
(ポプラ社)

『大坂オナラ草紙』

谷口 雅美/著
イシヤマ アズサ/画
(講談社)

『ダニーの学校大革命』

ラッセル・オスファテール/作
ダニエル遠藤みのり/訳
風川 恭子/絵
(文研出版)



貸し出し中の本は予約できます。くわしくは職員におたずねください

